



### 原点に立ち戻って

校長 平田 和利

今の子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、人口減少、グローバル化の進展、技術革新等により予想困難な時代となります。そのことから変化の激しい社会で主体的に対応できる人間の育成が求められています。まずは、現実の子どもの姿を見つめてはどうでしょうか。

貝原益軒の養生訓には、「富に三等あり、家の富、身の富、心の富、これなり」を挙げています。子どもを育てる土台である「生きる力」を自分のものにする育て方の原点に立ち戻って学校と家庭が一緒に考える必要があると思います。

生きる力の要素としては、健康、判断力、感性、自立の4つが挙げられると思います。

健康については、生活環境に順応できる健康な体の子どもに育てることが重要です。そのためには、まず、正しい生活のリズムと基本的な生活習慣を身につけさせなければなりません。また、偏食のないバランスのとれた食生活も大切です。さらに規律ある生活の中で年齢に応じて体を鍛えることも大切です。

判断力については、新しい知識を現実に結び付け、考えることを重ねて、はじめて判断力は育ってきます。この「知識」「考える」の基礎として、話し言葉・書き言葉を大事にしたいものです。言葉を理解し、言葉で思考し、言葉で表現するという一連の操作が判断力の基礎です。そして、ものをよく見つけ、考え、振り返る子どもに育てたいものです。

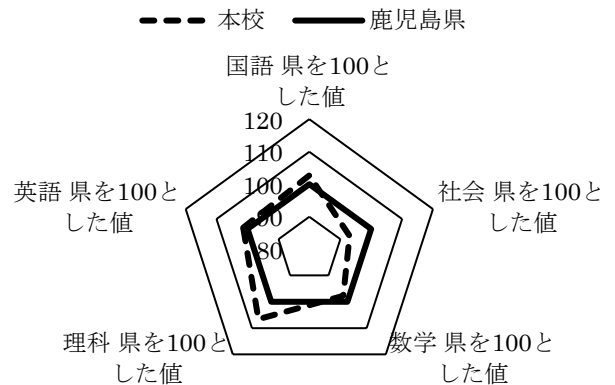
感性については、豊かであることです。感性が豊かであれば、人の痛みが分かることにつながります。豊かな日常生活の中で、様々な出会いを持たせ、それを大切にさせることです。自然の美しさや変化に気づかせたり、飼育や栽培の喜びを味わわせたりするなどの感動場面を大事にさせることです。また、文学や芸術に触れる機会を与え、それらの中で豊かな感性をもって子どもを育てたいものです。

自立としては、過保護や甘えが克己心を蝕むものです。年齢相応の労働に親しませ、集団の成員としての自覚を促すことも必要です。また、計画性を重視し、それを見通しの力、段取りへの力へと転移させることが大切です。

これまで以上に学校、家庭、地域の関係者が幅広く連携・協働しながら子どもたちを育てていきましょう。

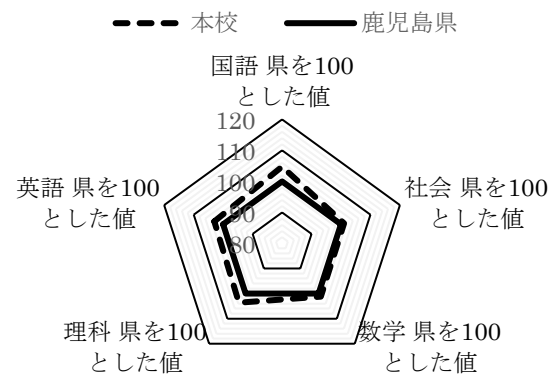
### 鹿児島学習定着度調査結果

#### 中学校 1 年生



県平均通過率を 100 とした場合のグラフ①

#### 中学校 2 年生



県平均通過率を 100 とした場合のグラフ②

令和4年1月18日(火)・19(水)に実施しました鹿児島学習定着度調査結果の概要をお知らせします。調査は、中1・2の国語、社会、数学、理科、英語の各教科及び生徒の学習に対する意識や学び方などに関する質問紙でした。

### ○「鹿児島学習定着度調査」の通過率の結果から

【1年生について】 グラフ①から

- (1) 国語・理科・英語の平均通過率は、県平均通過率よりも高い。
- (2) 数学の平均通過率が県平均通過率よりやや低く、社会が低い。

【2年生について】 グラフ②から

- (1) 国語・理科・英語の平均通過率は、県平均通過率よりも高い。
- (2) 社会・数学の平均通過率は、県平均通過率よりやや高い。

### ○ 学力向上策

鹿児島学習定着度調査の分析に基づき、以下のようなことを実行していきます。

- 1 生徒の学力状況や生活状況を把握し、指導法の工夫・改善を図ります。
- 2 協同学習を推進し、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善を進めていきます。
- 3 各教科の通過率の低かった内容や領域については、定期テストや毎時間の小テストなどで繰り返し補充学習や個別指導を行い、学力の定着を図ります。
- 4 過去の問題や類似問題などを準備し、家庭学習などで随時活用する。
- 5 かごしま学力向上 Web システムの問題や高校入試の過去問題等を計画的に活用していきます。

## 同窓会入会式

3月11日(金)、本校体育館において同窓会入会式が行われました。

平成6年4月、坂元中学校と伊敷中学校から分離し、教職員38名、生徒数、784名、22学級の市内でも有数の大規模校として開校しました。

以来、PTAをはじめ関係者の方々のご努力に支えられ、学校・家庭・地域が一体となり、今日まで一步一步着実な歩みを刻みながら、「自主・創造・協力・友愛」の校訓のもと、輝かしい伝統と校風を築いてきました。

平成6年の開校当時からこれまで6、777名

にのぼります。

そして今年の卒業生が入会することで、本校同窓会員は6、971名となります。

卒業する3年

生が「かけがえのない母校である、伊敷台中学校で繋がっている絆」を大切にして、これからの人生、力強く歩んでもらいたと思います。

そして、今後は、同窓会の一員として、どんなに厳しい世の中であっても、しっかりと活躍し、母校の名を更に高めていってくれることを心から願っています。



## ゲーム・スマホの長時間使用？

子どもたちは1日のうちどれくらいの時間、スマホ等を使っているのでしょうか。全国学力・学習状況調査(現3年生対象)の質問紙結果から、普段(月から金)、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマホを使ったゲームも含む)をする割合が27.2%でした。利用時間が身体や学力等に影響するのか気になります。

令和元年度日曜参観の携帯安全教室で、増田クリニック院長の増田彰則先生が「ゲーム・スマホの長時間使用は睡眠不足と成績低下につながる」という演題で講演をしていただきました。

その中で、ネット・ゲーム依存により「睡眠に与える影響」、「勉強・成績に与える影響」、「社会性の発達に与える影響」、「脳に与える影響」などについて実態を踏まえながら説明していただきました。

また、ネット・ゲーム・スマホ依存予防は、「中学生は1時間以内」、「夜9時以降はしない、させない」、「子どもの前で親がしない」、「ゲームやネット以外の外遊びやスポーツを体験させる」など家庭で取り組み、子ども部屋をゲームセンター、歓楽街にしないことであると話されました。子どもの利用時間を減らす方法としては、利用時間、利用場所、使ってよいアプリ・サービスなど家庭でのルールを作り、「ルールを守る」ことの必要性も子どもに教えるべきことだと思います。夜決まった時間帯に保護者が預かる、利用制限をかけるなども必要な方法になると思います。

